

太田市議会  
議長 星野 一広 様

令和8年3月30日

市民ファーストの会 代表 神谷 大輔

### 会派行政視察報告書

- 1 期日 令和8年1月14日（水）から 1月15日（木）までの2日間
- 2 視察地 茨城県行方市、栃木県那須郡那珂川町
- 3 視察事項 (1) 茨城県行方市 行方市役所、なめがたファーマーズヴィレッジ  
「なめがたファーマーズヴィレッジ（廃校活用）」について  
(2) 栃木県那須郡那珂川町  
「那珂川バイオマス発電所（廃校活用）」について
- 4 参加者 3名 大川 敬道 神谷 大輔 山水 めぐみ
- 5 視察概要 別紙の通り

## なめがたファーマーズヴィレッジ（廃校活用）について

### （１）茨城県行方市「行方市役所」・なめがたファーマーズヴィレッジ視察概要

#### 【行方市の概要】

- ・面積：166.33 km<sup>2</sup>（湖を含めると 222.48 km<sup>2</sup>）
- ・人口：31,283 人（令和 7 年 4 月 1 日）
- ・一般会計予算 令和 7 年度：201 億 9000 万円  
令和 6 年度：191 億円
- ・議員定数：18 人

#### 【視察事項】

行方市においては農業を基幹産業としており、とりわけサツマイモは特産品として扱われています。JA なめがたは、平成 13 年以来、白ハト食品株式会社と出荷契約を締結しており、同社から示された「地域資源を活用した廃校活用型テーマパーク計画」の意向を受け、JA および各行政機関が平成 23 年から協議を開始しました。その結果、学校跡地を有償譲渡し、平成 27 年 10 月に「なめがたファーマーズヴィレッジ」が開設されました。

開設に至るにあたり、まず、これまでの地域との信頼関係を基盤とした上で、企業側から地域資源を活用した廃校型テーマパーク計画が示されました。この計画は、単なるお菓子工場ではなく、かつての学び舎を舞台とした農業体験や新商品開発、観光振興や雇用創出など、地方創生を目的とするものでした。

地域住民や生徒・保護者・教職員といった学校関係者からは反対意見も出されましたが、計 9 回の地区説明会を開催し、理解醸成を進め、合意形成を図ったとのことでした。

観光面においては、コロナ禍で来場者が落ち込んだ時期もありましたが、昨年度は約 14 万人が来場。また、雇用面では、新規雇用 200 名のうち 150 名が地元雇用であったとのことでした。

#### 【所感】

廃校活用については、本市において必ずしも切実な課題とは言えない面もあるものの、新市長の施政方針により、未来に負担を残さないためにも公共施設のあり方を検討する必要性は、これまで以上に高まっていると考えられます。

今回の視察は先進事例の確認を目的としたものであったが、人口減少社会において教育施設である学校の統廃合は、行政としても極めて機微な対応が求められ、丁寧に進めるべきであると改めて感じました。

行方市においては、地域の特産品であるサツマイモの加工会社との互恵的な関係を活かし、その信頼関係を基盤として、廃校をサツマイモのテーマパークへと生まれ変わらせまし

た。これにより、賑わいと雇用の創出にとどまらず、行政にも波及効果が生まれました。2024年11月には「行方市さつまいも課」を設立したとのことですが、これは市役所内の正式な行政課ではなく、市役所・JA・生産者などサツマイモ関係者が協働して運営する専門チームであり、「さつまいもといえば行方市」という認知拡大を目指しているとのことでした。

本市においてもヤマトイモを特産品として扱っており、今後の特産品活用の可能性を含め、廃校活用にとどまらない有意義な視察であったと考えます。今回得られた知見を、今後の施策検討に活かしていきたいと考えます。



## 「那珂川バイオマス発電所（廃校活用）」について

(2) 栃木県那須郡那珂川町 県北木材協同組合 那珂川工場

### 【那珂川町の概要】

- ・面積：192.78 km<sup>2</sup>
- ・人口：13,266 人（令和 8 年 2 月 1 日）
- ・一般会計予算 令和 7 年度：96 億 8000 万円  
令和 6 年度：89 億円
- ・議員定数：11 人
- ・政務活動費：15,000 円（議員一人あたりの月額）

### 【視察事項】

製材業が基幹産業である那珂川町において、少子化の影響で廃校となった中学校を活用し、製材工場・発電所・熱利用ボイラーを一体化したモデル事業である「那珂川モデル」の視察を行いました。町は木材加工事業者に土地・建物を貸し、まず 2012 年 4 月に製材工場を稼働させ、その後、製材事業で発生する木質チップの有効活用として、これを燃料とするバイオマス発電施設を同敷地内に建設し、2014 年 10 月には売電を開始しました。

さらに、木質バイオマス燃料は電気だけでなく熱も生み出すことから、熱利用事業にも取り組み、現在はうなぎ養殖やマンゴー栽培への熱供給が行われているとのことでした。

### 【所感】

山間地に位置する那珂川町においては、少子化による学校の統廃合の問題と、基幹地場産業である林業振興の課題を重ねて考えることで、行政も含めた合意形成が円滑に進み、効果的な廃校活用が図られていることが理解できました。事業者側も、人々の生活の場（集落）が存続することが林業の活性化につながるという考えに基づき、学校が廃校となる背景に向き合い、地場産業の活性化が必要であるとの認識から、雇用と循環を生み出す機能を有する施設として活用し、地域再生を進めていました。

こうした実践事例は、従来のスクラップ・アンド・ビルドからの脱却を示すものであり、本市の施策にも通じる視点であると考えます。今後の施策の着想につながる有意義な視察であったと考えます。



2か所の廃校活用を視察してきましたが、行方市は農業振興、那珂川町は林業振興というように、いずれも地場産業との関係を活かし、地場産業の振興と地域振興を重ねて進めていることが、視察を通じて理解できました。また、廃校の活用が地域に新たな付加価値をもたらし、活用する事業者も地域の特性にしっかり向き合い、地域貢献と地域課題の解決に取り組む姿勢を示した上で活用していることが確認できました。

さらに、その使命感を行政に伝えることで合意形成が進み、行政との協働が図られていると考えます。少子化に歯止めがかからない状況においては、本市にとっても将来を見据えた検討が必要であると考えます。視察先の今後の展開にも関心を持ち、向き合っていくべきであると考えます。